

平成26年8月20日

農作物生育・技術情報7号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JA平取町 JA門別町 JAとみかわ

1 水稻生育状況 中苗:ななつぼし

稲の生育は平年より進んでいますが、穂かがみ～籾の黄化に至るなど、地域によって生育差が見られます。

出穂後は水田土壌や稲の登熟状況をよく観察し、仕上げの水管理を行います。登熟後半は「穂かがみ期」以降に落水しますが、土壌表面が乾燥しすぎると亀裂が大きくなり、根が切れて稲の吸水力が低くなって登熟不良や千粒重の低下を招きます。水田の排水状況をみて行いましょう。

カメムシなどの病害虫は、水田すくい取りを行い、発生状況に応じて防除してください。

生育状況 (8/15現在)			〈技術対策〉
項目	26年	平年	
草丈	96.9cm	97.7cm	●登熟前半の水管理 「穂かがみ期」になるまで、水田の土壌水分を確保する。 ●登熟後半の水管理 収穫の10日前頃までは、土壌表面を乾燥させない。 水田の適正な水分は、土壌表面に小さな亀裂ができ少し足跡が付く程度。 排水の悪い水田は溝切りを行う。 ●カメムシ基幹防除後の要防除(出穂21日後・28日後)水田すくい取り(20回)による判断基準 きたくりん 3頭 きらら397 2頭 ななつぼし 1.5頭 ほしのゆめ 1頭
葉数	10.7葉	10.9葉	
m茎数	653本	533.2本	
出穂期	7月29日	8月3日	
出穂揃	8月2日	8月7日	
生育の遅速	+5	-	

※ 病害虫防除は、農作物病害虫防除ガイド等により適正な薬剤使用を行う。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト ハウス桃太郎 桃太郎8 桃太郎ギフト	<ul style="list-style-type: none"> ・5月下旬定植で4段目収穫中。 ・6月中旬定植で2段目収穫中。 ・葉かび病は品種により発生が見られ、灰色かび病は例年並みに発生している。 ・害虫の発生は適切な防除作業により、比較的少なく経過している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの湿度が高くないように十分な換気に努め、古葉や内側の葉は適切に摘葉する。 ・高温期の着果不良や上位段での空洞果が予想される場合は、トマトーン100倍とジベレリン10ppmを混用処理する ・今月下旬からは、急激に温度が下がり、「裂果」や「疫病」の発生しやすい環境になるので温度管理に注意する。 ・収穫が終了したほ場の茎葉残さは、必ず適正に処理する。

作物名	生育状況	技術対策
きゅうり オーシャン	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は順調。 ・主茎が20節程度まで伸長し、平年並の収穫始となる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「うどんこ病」「アシグロハモグリバエ」、「コナジラミ類」の発生に注意する。 ・害虫の発生が見られた場合は、適宜防除を実施する。 ・主茎の摘芯や側枝の整理は、まとめて一度に行うと、樹勢が衰えるので注意する。
ハウス軟白ねぎ ホワイトソードなど	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類、アシグロハモグリバエの発生が多い。 ・一部で葉先枯れ、葉枯病がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草は害虫の発生源になりやすいのでハウス内外の除草を行う。 ・葉先枯れ部分に病害が感染しやすいので葉先枯れが生じた時点で農薬を散布する。

作物名	生育状況	技術対策
アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウェルカム	・一部で斑点病、アザミウマ類、ヨトウムシの発生が見られる。	・ハウス内外の除草を徹底する。 ・昼夜温に差が出始め、病気が発生しやすくなるので温度管理に注意する。

※日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。

この抵抗性は抵抗性の強いタイプIVです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょ。

4 畜産

●牧草生育状況（8月15日現在） ～ 高温により、十分伸長しないまま出穂した ～

作物名	生育状況			遅速日数	摘 要 (作業期節・特記事項)
	項目	26年	平 年		
牧草(チモシー)	草丈(二番草)	73.5cm	79.1cm	-4	収穫適期です。

※二番草の刈取時期は一番草刈取後、50日～60日です。

遅れると栄養価や嗜好性が悪くなります。天候に留意し、効率よく収穫しましょ。

●サイレージ用とうもろこし生育状況（8月15日現在）

作物名	生育状況			生育期節	遅速日数	備 考
	項目	26年	平 年			
サイレージ用 とうもろ こし	草丈 葉数 稈長	311.6cm 18.4枚 276.1cm	299.5cm 17.8枚 272.8cm	絹糸抽出 100%	+8	高温により、生育は進んでいます。

※登熟が早まる可能異性があります。平年値(乳熟期:9/1、糊熟期:9/12、黄熟期:9/28)

登熟度合に留意し、早めの収穫準備をしましょ。

5 畑作

(1) てんさい

褐斑病、ヨトウガ、アシグロハモグリバエの発生拡大が懸念されます。

ほ場観察を行い初発防除で被害を抑えましょ。

(2) 大豆、小豆

ツメクサガ、アズキノメイガの発生時期です。

ほ場をよく観察し、発生が確認されたら直ちに有機りん剤（トクチオン乳剤、トレボン乳剤など）で防除しましょ。

(3) 秋まき小麦の後作緑肥

収穫後のほ場地力を高めるために後作緑肥を作付けましょ。輪作体系により異なりますが、次の栽培例を参考にしてください。

表 イネ科作物(えん麦)の後作緑肥栽培例

は種時期	すき込み時期	は種量(/10a)	施肥量(/10a)
8月中旬	10月中～下旬	15kg程度	窒素5kg リン酸5kg 加里0～5kg

注) 麦収穫後ほ場をロータリ等で耕起整地し、ブロードキャスト等で混用した緑肥種子と肥料を散布後、鎮圧する

6 農薬の使用は、正しく安全に！

- (1) ラベルの記載事項を守りましょ。
- (2) 防護装備をしっかり着用しましょ。
- (3) 周辺への飛散に注意しましょ。
- (4) 農薬保管庫は必ず施錠しましょ。



いつものチェック、忘れずに！